


[施策総合評価]

◎ (5.7点)

[目指す姿]

本市では、総合計画を中心として行政評価、予算編成、組織編成及び定員管理が連動し、時代の変化に対応した柔軟で機動性の高い意思決定と実践力の下、経営資源を有効にかつ総合的に活用した行政経営を行い、最少の経費で最大の市民サービスを提供しています。

[まちづくり指標]

指標 1 簡素で効率的な行政運営が行われていると思う市民の割合		現状値						目標値	
	単位:% (アンケート)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32
		—	18.9	—	10.3	—	14.8	24	29
①	(指標の説明) 平成 22 年度の市民アンケート調査結果では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した市民の割合は、18.9%でした。この割合を平成 32 年度までに本施策の推進により 29%に高めることを目標として設定しています。								
	(現状と課題) 市では、毎年行政評価を行うことで、施策の進捗状況の確認をしています。評価内容に基づき事業の見直しを行い、次年の予算編成に反映させることにより、効率的な行政運営を推進します。								
	(進捗よく度ランク) 進捗よく度 △40.6% がんばろう 								
	(今後の方策) 平成 28 年度は、第四次座間市総合計画の計画期間 10 年間の前期 5 年が経過することから見直しを行い、計画の適時性を高めます。								

## [内部評価]

### 465110 総合計画推進事業

#### 総合評価 7点

第四次座間市総合計画が平成23年度からスタートし、当該事業については、中間見直しを平成26年度及び平成27年度で行う。市の政策全体を総合的に推進する根幹事業であり、有効性、必要性ともに極めて高い。

### 465131 市マスコットキャラクター「ごまりん」PR推進事業

#### 総合評価 8点

「ごまりん」を介してシティセールスを行い、市の魅力向上やブランド創出のため先進的な取り組みを行う必要があり有効な事業である。

### 465201 行政評価システム推進事業

#### 総合評価 9点

平成14年度から実施している行政評価は、平成23年度からスタートした第四次座間市総合計画の進捗管理ツールとして位置づけ、市民等へ分かりやすい内容で説明責任を果たすために必要性、有効性ともに極めて高い。

### 465304 職員提案制度事業

#### 総合評価 5点

職員一人一人の意識改革を向上させるための研修等の実施により、組織的な意識の高揚を図りながら、攻めの姿勢で提案がされるような環境を構築できるよう検討を要す。

## [外部評価]

### アンケート結果（H26年5月実施「まちづくりのための市民アンケート」）

関心度	44.4%	52位/52施策
重要度	2.9%	40位/52施策

### 外部評価委員（評価・提言 H27年3月実施）

- ① 公共施設のあり方については、機を逸することなく、スピード感をもった対応が必要と考える。再整備の必要性について、関係各課へ働きかけるとともに、市民の意見を取り入れながら検討し、効果的に運営すべきである。

- ② ざまりんを活用した様々なPR活動は、親しみやすいキャラクターとして市民の好感度も高く、その効果も大きく評価できる。類似した事業が複数の課で展開されていることから、関連性を持って組織と事業内容を見直す必要がある。シティセールスを推進するにあたり、観光協会等との連携を強化することで市民参画と民間の発想による事業の推進が図れるものとする。

#### **外部評価（外部評価委員）に対する対応**

- ① 平成25年度より取り組んでいた「公共施設利活用指針」の作成が平成26年度に完了しました。今後は、インフラ資産を含めた指針の作成を進めるとともに、再整備計画の検討を行っていく予定です。この中で市民の意見の取り入れ方についても検討していきたいと考えております。
- ② ざまりんを活用したシティセールスは、知名度の上昇に比例し市の活性化が図られているものと認識しており、今後も積極的な推進が必要と考えています。より効率的な運用を図るに当たり、類似事業を集約し関連団体と連携しながら事業が展開できる組織について、見直しを視野に入れ検討してまいります。

[施策 4.7 財政運営]


[施策総合評価]

② (7.0点)

[目指す姿]

将来にわたる財政基盤の強化及び効率的な財政運営を図るため、自主財源及び依存財源の確保はもとより、経常経費の抑制、財源の有効配分や債務の解消を確実にを行い、所有する財産の適切な管理を行う中で経営資源の有効な活用を図り、常に次世代に説明責任を果たすことができます。

[まちづくり指標]

指標 1		現状値						目標値	
健全な財政運営に向けて取り組んでいると思う市民の割合		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32
①	単位:% (アンケート)	—	26.4	—	15.1	—	25.0	28	30
	(指標の説明) 平成 22 年度の市民アンケート調査結果では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した市民の割合は、26.4%でした。この割合を平成 32 年度までに本施策の推進により 30%に高めることを目標として設定しています。								
	(現状と課題) 社会情勢の変化や市民ニーズの多様化に対応するため、自主財源及び依存財源の確保や市債の計画的な償還などに努めてきたところですが、将来にわたる財政基盤の強化及び効率的な財政運営を図るためには、各種財源の確保はもとより、さらなる経常経費の抑制などを通じて次世代に説明責任を果たすことが必要です。								
	(進ちょく度ランク) 進ちょく度 $\Delta 38.9\%$ がんばろう 								
	(今後の方策) 引続き、自主財源及び依存財源の確保、経常経費の抑制や市債の計画的な償還に努めます。								

## [内部評価]

475107 財務会計システム管理運用事業

総合評価 10点

公会計システムにも対応した財政運営の基幹システムであり、必要性は極めて高い。

## [外部評価]

アンケート結果（H26年5月実施「まちづくりのための市民アンケート」）

関心度 69.1% 29位/52施策

重要度 5.3% 27位/52施策

[施策48 賦課・徴収]

[施策総合評価] . . . 設定なし

[目指す姿]

市民は、市が公平かつ的確な賦課、徴収を行っていると感じています。

[まちづくり指標] . . . 設定なし

[内部評価]

設定なし

[外部評価]

アンケート結果（H26年5月実施「まちづくりのための市民アンケート」）

関心度	79.1%	17位/52施策
重要度	5.7%	25位/52施策